

事例 20 地域と連携した那須街道アカマツ林保全の取組

(関東森林管理局 ^{えんな}塩那森林管理署)



- ・ 栃木県 那須（なす）郡 那須町（なすまち）
高久第一（たかくだいいち）国有林
- ・ 左：ボランティアによるアカマツ苗木の植付けの様子
右：マツノザイセンチュウ防除に向けた薬剤の地上散布作業の様子

栃木県那須町に位置する那須街道アカマツ林は、約 79ha の広大なアカマツの天然林で、樹齢 100 年を超えるアカマツの大木が約 2.5 km にわたって街道の両側に広がる風景は「とちぎの景勝百選」として多くの人に親しまれています。しかし、マツノザイセンチュウによる松くい虫被害のため、昭和 50 年代に約 2 万本あったアカマツは、現在、約 8 千本に減少しています。

関東森林管理局塩那森林管理署では、アカマツ林を保全するため、松くい虫被害の予防のための薬剤の地上散布や樹幹注入に加え、松くい虫被害の拡大を防ぐため、被害木の伐倒駆除を実施しています。また、ボランティア団体等と協力した植樹等の保全活動など、森林保全についての普及活動を実施しています。

これらの結果、ここ数年で被害木の本数は減少傾向にあり、地域と連携したアカマツ林保全の取組が成果を上げているものと考えられます。今後も、アカマツ林の保全に向けた取組を実施していくこととしています。